



株式会社三井E&Sホールディングス



# 第119期 中間報告書

2021年4月1日 ~ 2021年9月30日



証券コード：7003

# 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜りまして、厚く御礼申しあげます。

ここに三井E&Sグループの2021年度上半期における事業概況及び2021年度通期における見通しについてご報告申しあげます。

## 2021年度上半期における事業概況

当期中半期の世界経済は、回復局面にあるものの、依然として新型コロナウイルス感染症に左右される不安定な状況にあります。また、国内経済は、ワクチン接種が進み経済活動の正常化が期待されておりますが、海外と同様、引き続き先行き不透明な状況にあります。

当社グループの状況は、海外EPCプロジェクトでの大規模損失を受け、「三井E&Sグループ 事業再生計画」を策定し、財務体質の改善に取り組んでいるところです。こうした中、2021年10月1日付で、「三井E&S造船株式会社の艦艇事業等の譲渡」及び「三井E&S造船株式会社の商船事業の一部株式譲渡」を完了いたしました。さらに、事業再生計画の達成に一定の目処が付けられる状況に至ったことから、事業と経営との距離を縮め、一体となって戦略立案・実行スピードを上げることを目的として、2023年4月1日を目途に純粋持株会社体制を解消するための準備を開始いたしました。

このような状況のもと第2四半期連結業績は、売上高3,564億円、営業損失45億円、経常損失23億円、親会社株主に帰属する四半期純利益26億円となりました。なお、当年度の中間配当は、現在の財務状況を踏まえ実施を見送らせていただきました。

## 2021年度通期における見通し

当社子会社の三井海洋開発株式会社が2021年12月期通期業績予想を修正したことに伴い、通期の連結業績見通しを前回予想から下方修正しております。営業利益の通期見通しを50億円からマイナス40億円へ、当期純利益の通期見通しを30億円からマイナス30億円へ修正いたしました。なお、期末配当は無配とさせていただく予定です。業績見通しを下方修正せざるを得なくなり、社長として誠に申し訳なく思っており、株主の皆様には深くお詫び申しあげます。

当社グループは、2020年8月に策定した「2020年度中期経営計画」(20中計)に沿って、「財務体質の改善」、「事業領域の集中と協業」、「経営基盤の強化」を基本方針とした戦略を着実に実行してまいりました。また、その戦略のもと、大きな社会課題である「クリーンエネルギーへの転換」、「デジタル化の推進」を成長機会と捉え、2021年4月に成長事業推進室を新設し、当社グループ全体の成長事業戦略を強力に推し進めております。

20中計に示す各施策の確実な遂行と、さらなる成長事業戦略を実行・加速させることで、社会課題の解決と利益創出の両立を通じて、持続的な企業価値向上に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、当社グループの目指す方向性を何卒ご理解いただき、引き続き中長期的な視点でご支援とご協力を賜りますようお願い申しあげます。

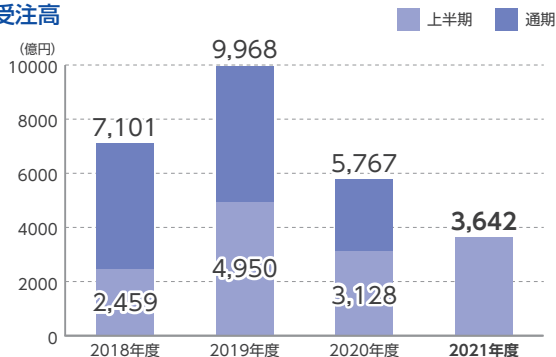
代表取締役社長 CEO

岡 良一

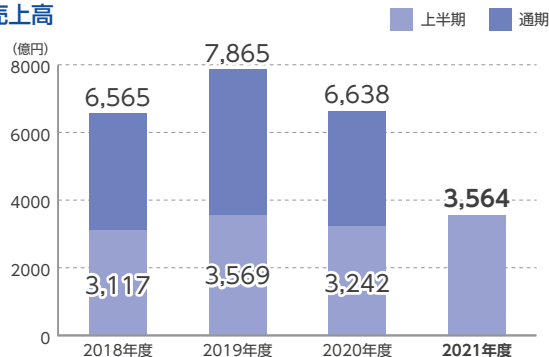


# 連結業績ハイライト

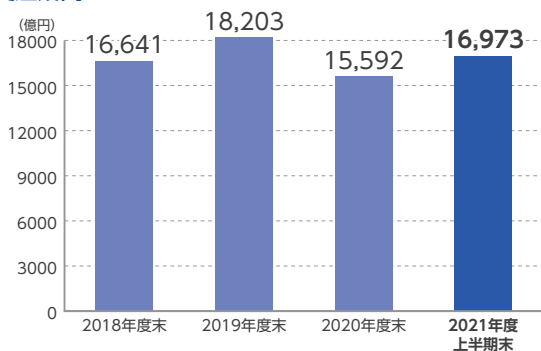
## 受注高



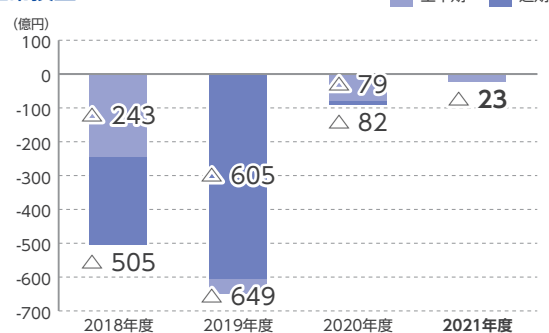
## 売上高



## 受注残高

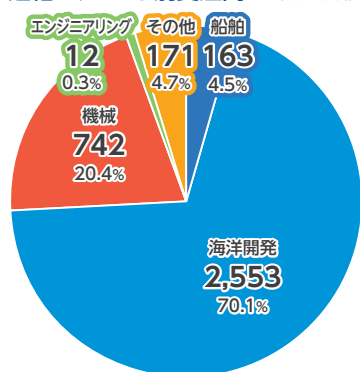


## 経常損益



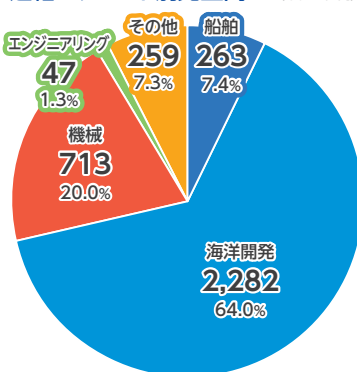
## 連結セグメント別受注高

(単位：億円)



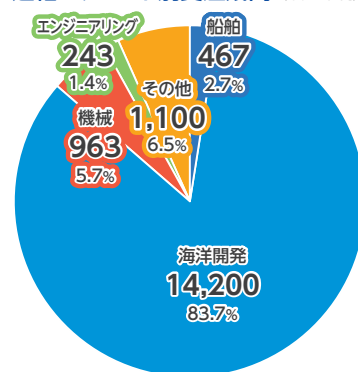
## 連結セグメント別売上高

(単位：億円)



## 連結セグメント別受注残高

(単位：億円)



## 事業トピックス

### 世界初 大型カーフェリーによる実岸壁での自動離着棧に成功

三井E&S造船(株)は、(株)商船三井、東京海洋大学、(株)三井造船昭島研究所とともに、国土交通省の「船舶の自動離着棧の安全性に係る実証事業」において、大型カーフェリーとしては世界で初めて実岸壁での自動離着棧を成功させました。この自動離着棧の実証試験は、商船三井フェリー(株)所有の大型カーフェリー「さんふらわあ しれとこ」(総トン数11,410トン)を用いて、茨城県大洗港にて実施したものです。

この実証試験結果を活かし、他船種でも実岸壁での自動離着棧の実証試験を行い、より汎用性の高い技術とすることを目指します。また、自動離着棧のみならず、自律航行の実現に向けた取り組みも進めており、2021年度中に3隻の船舶を用いて自動航海の実証試験を実施します。

大型カーフェリー「さんふらわあ しれとこ」



実証試験中のブリッジからの展望と自動操船システム画面

### ブラジル沖合プレソルト層セピア鉱区向け「FPSO Carioca MV30」、チャーターサービスを開始

当社子会社の三井海洋開発(株)が、ブラジルの国営石油会社であるペトロbras社より受注し、建造を行っていた「FPSO Carioca MV30」が、2021年8月にブラジル沖合プレソルト層セピア鉱区において、原油・ガス生産開始を達成し、21年間のチャーターサービス(リース及び運転・保守点検等のオペレーション)を開始しました。

チャーターサービスの開始により、同社の収益基盤は一層拡大すると期待されます。

2006年に発見され、その可採埋蔵量の多さから、ブラジルのみならず石油・ガス業界全体からも注目されるプレソルト層深海鉱区群において、三井海洋開発(株)は、2010年に同社のFPSOが世界初の原油商業生産を達成して以来、計9基のFPSOを受注するなど、圧倒的な実績を誇っています。



FPSO Carioca MV30



## LPG 焚き低速ディーゼル機関受注

㈱三井E&Sマシナリーは、2021年上期に三菱造船㈱から、LPG 焚き低速ディーゼル機関「6G60ME-C10.5-LGIP-EGRBP」を受注しました。三菱造船㈱がLPG燃料供給システムを手掛け、㈱名村造船所で建造の大型LPG運搬船へ搭載予定です。

このたびの受注により、LNG、エタン、メタノール、LPGの各燃料に対応した機関が商品化されたこととなります。これらの燃料は、通常の重油を燃料とする場合に比べ大幅にCO<sub>2</sub>排出量が削減されます。

今後は、CO<sub>2</sub>を全く排出しないアンモニア燃料や水素燃料に対応した機関の開発を進めてまいります。



## ニアゼロエミッション型 港湾荷役クレーン受注

㈱三井E&Sマシナリーは、2021年2月から将来の排ガスゼロに対応可能なニアゼロエミッション型トランスターナ®の販売を開始し、4月に商船港運㈱から神戸国際コンテナターミナル向けに2基、7月に㈱ユニエクスNCTから日本郵船東京コンテナ・ターミナル向けに4基を受注しました。これらは、大型蓄電池と小型ディーゼル発電機セットを搭載しておりますが、将来の水素社会の到来を見据え、電源装置を水素燃料電池に換装し、最小限の改造でゼロ・エミッションを達成することが可能な仕様となっております。

㈱三井E&Sマシナリーは、お客様の要望に沿い、カーボンニュートラルポートの実現を目指してまいります。



# 成長事業推進室新設 -グループ全体の成長事業の推進-

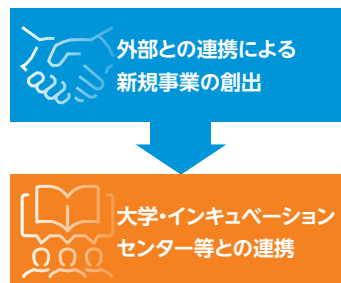
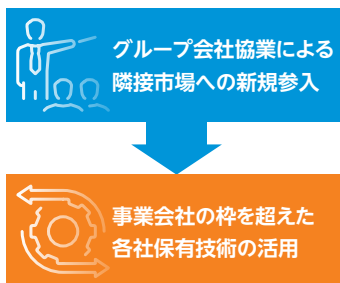
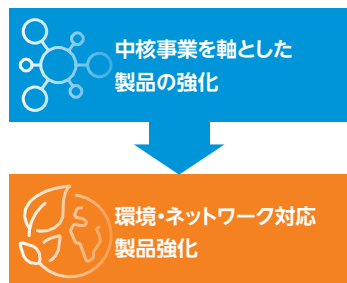
2021年4月1日付にて、成長事業推進室を新設しました。

当社は2019年5月に「三井E&Sグループ 事業再生計画」を策定し、これまで着実に実行してまいりました。

事業再生に一定の目処が立った今、社会課題解決と利益創出の両立を通じて持続的な企業価値向上の実現を目指します。

## 基本方針

大きな社会課題である、クリーンエネルギーへの転換・デジタル化の推進を成長機会と捉え、「グリーン」と「デジタル」を切り口とした成長事業戦略を推進します。当社グループの基盤事業領域であるマリン領域を軸とした足元の成長戦略から長期視点での新規事業創出を推進し、当社グループのさらなる発展を図ります。



## 関連トピックス

- 1 船用推進システム事業**  
水素・アンモニアの船舶燃料利用に関して各社と連携して検討を進めており、国際海運での温室効果ガス削減に向けて、水素・アンモニアの船舶燃料利用の早期実装を目指していきます。
- 2 物流運搬機システム事業**  
ゼロ・エミッショントランスレーナ、遠隔・自動化トランスレーナの開発を進め、カーボンニュートラルポート、遠隔・自動化ポートの実現を目指していきます。
- 3 テクノサービス事業**  
各種探査・診断技術、ドローンの活用技術等を含め、船用推進システム、物流運搬機システム及び社会インフラ分野での、メンテナンスサービスの拡充を目指していきます。

# 会社の概要

2021年9月30日現在

商号	株式会社三井E&Sホールディングス
創立	1917年(大正6年)11月14日
設立	1937年(昭和12年)7月31日
資本金	443億8,495万円
従業員数	40名(単体) 11,878名(連結)
ホームページ	<a href="https://www.mes.co.jp/">https://www.mes.co.jp/</a>
本社	〒104-8439 東京都中央区築地5丁目6番4号

# 主なグループ会社

2021年9月30日現在

- 三井E&S造船株式会社
  - 株式会社三井E&Sマシナリー
  - 株式会社三井E&Sエンジニアリング
  - 株式会社三井E&Sビジネスサービス
  - 三井E&Sシステム技研株式会社
  - 株式会社MESファシリティーズ
  - 三井海洋開発株式会社
  - Burmeister & Wain Scandinavian Contractor A/S
  - 株式会社加地テック
  - Mitsui E&S Asia Pte. Ltd.
  - 三井E&S(中国)有限公司
- (注)上記子会社11社を含む連結子会社は79社、持分法適用非連結子会社は1社、持分法適用関連会社は45社であります。

# 株式の状況

2021年9月30日現在

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数	83,098,717株
株主数	52,503名

(内訳)

金融機関	46名	23,121,747株	27.8%
証券会社	61名	1,609,554株	1.9%
その他国内法人	381名	9,729,547株	11.7%
外国人	266名	19,115,851株	23.0%
個人・その他	51,749名	29,522,018株	35.5%

# 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年

定時株主総会 毎年6月開催

同総会の議決権の基準日 毎年3月31日

期末配当の基準日 毎年3月31日

中間配当の基準日 毎年9月30日

公告方法

電子公告 (<https://www.mes.co.jp/>)

事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都内で発行する日本経済新聞に掲載します。

1単元株式数 100株

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内1丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社

## 郵送物ご送付先・電話お問い合わせ先

〒168-0063 東京都杉並区泉和2丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

## 当社株式の所属業種変更に関するお知らせ

東京証券取引所における当社株式の所属業種は、これまで「輸送用機器」に分類されておりましたが、証券コード協議会の決定に基づき、2021年10月1日付で「機械」に変更されました。

これに伴い、新聞各紙等の株価欄の表示箇所も「機械」に変更されております。なお、証券コード(7003)の変更はございません。

## 新市場区分「プライム市場」選択に関するお知らせ

当社は、2021年10月28日開催の取締役会において、当社が所属する新市場区分として「プライム市場」を選択することを決議しました。

なお、当社は、2021年7月9日付で東京証券取引所より、新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する一次判定結果を受領し、「プライム市場」の上場維持基準に適合していることを確認しております。

# 三井E&S MOVIE CHANNEL



当社ホームページの「映像・広告ギャラリー」では、これまでに掲載した新聞・雑誌広告のほか、最前線で動く当社グループのプロジェクトやコーポレートメッセージを動画で紹介しております。

「映像・広告ギャラリー」は、当社ホームページのトップページから「企業情報」をご覧ください。当社ホームページへのアクセスは、下記URLを直接ご入力いただくか、サイト検索をご利用ください。

 <https://www.mes.co.jp/>

三井E&S

検索 



## 最新動画情報

### 三井E&S マシナリー 軸流圧縮機の製造工程

㈱三井E&S マシナリーは、主に製鉄所の高炉送風用として用いられる軸流圧縮機を自社開発して以来、システム全体のトータルコーディネーターとしてリーディングカンパニーの地位を確立しています。この動画では、同社玉野機械工場における軸流圧縮機の製造工程を紹介しております。



### ドローン自動飛行による港湾クレーン点検技術を確立

港湾クレーンの点検は、安全面・コスト面での問題に加えて、技術者不足の深刻化等の課題に直面しています。これらを解決するべく、㈱三井E&S マシナリーと㈱ゼンリンデータコムは点検業務へのドローンの利活用に取り組み、ドローン自動飛行による点検技術を確立しました。この動画では、その技術を紹介しております。

